



## HIV 看護・介護の質の向上と学校での HIV 予防教育実践に関する研究

研究分担者：佐保美奈子（大阪府立大学大学院 看護学研究科）

研究協力者：下線はグループリーダー

### 1 看護職のボトムアップとエンパワメント

山田加奈子（大阪府立大学大学院 看護学研究科）

高橋 弘枝（公益社団法人大阪府看護協会 会長）

千葉 鐘子（公益社団法人大阪府看護協会 専務理事）

中垣 郁代（公益社団法人大阪府看護協会 教育部）

久光 由香（近畿大学附属病院看護部 感染症看護専門看護師）

大野 典子（日本生命病院看護部 感染症看護専門看護師）

橋本 美鈴（大阪府立大阪はびきの医療センター 感染管理認定看護師）

辻岡麻衣子（国立大阪南医療センター）

北畠 朋子（国分病院）

鈴木 光次（訪問看護ステーション てとと）

立花 久裕（訪問看護ステーション 町の看護師さん八尾）

上原 優子（大阪大学医学部附属病院 精神保健福祉士）

### 2 介護保険施設における教育と研修のアプローチ

井田真由美（堺市立総合医療センター 看護部）

泉 柚岐（信愛女学院短期大学看護学科）

西口 初江（羽衣国際大学人間生活学部）

豊島 裕子（大阪市立総合医療センター 看護部）

熊谷 祐子（みのやま病院 看護部）

岡本 友子（ハシイ産婦人科 看護部）

繁内 幸治（BASE KOBE 代表）

### 3 高校生への HIV 予防啓発と養護教諭への教育と研修

古山 美穂（大阪府立大学大学院 看護学研究科）

北川未幾子（大阪府立大学大学院 看護学研究科）

橋弥あかね（大阪教育大学 教育学部 養護教諭養成課程）

工藤 里香（京都橘大学 看護学部）

高 知恵（大阪府立大学大学院 看護学研究科）

大川 尚子（関西福祉科学大学 健康福祉学部）

池田麻衣子（大阪府教育センター附属高等学校 養護教諭）

眞弓 靖子（大阪府立緑風冠高等学校 養護教諭）

賀登さおり（大阪府立泉北高等学校 養護教諭）

牧之内純子（特定非営利活動法人ピープルズホープジャパン）

## 研究要旨

地域 HIV 看護・介護の質の向上と拡大戦略に向けて、①介護保険施設で勤務する看護・介護職への研修を企画・実施、② HIV サポートリーダー養成研修の受講生募集地域を大阪府内から近畿ブロックに拡大、③ 学校基盤の HIV 予防教育の強化のために、養護教諭養成課程を担当する教員との協力体制作りを行った。研究テーマである、HIV 看護・介護の質の向上と学校での HIV 予防教育実践についての基盤ができつつある。

## 研究目的

(公社)大阪府看護協会と連携しながら、看護職と看護学生・養護教諭課程学生を対象に HIV サポートリーダー養成研修を実施する(年2回、各2日間)。介護職を対象とした研修を介護保険施設に出向いて実施する(5施設程度)。高等学校への出前講義は、一斉講演を15校程度、クラス単位の講義を2~3校に実施する。研修や講義前後の変化を明らかにし、教育効果のアップを図る。

## 研究方法

HIV 研修前後の知識・態度の変化をアンケート調査した。

### (倫理面への配慮)

アンケートの実施にあたっては、学会や報告書において内容を発表することについて了解を得たうえで、協力は自由意志であること、匿名での記入であること、語った内容については、個人が特定されないように配慮すること、希望時は調査結果を知らせること、個人情報保護について説明をおこなった。事業評価のため倫理審査は対象外である。

## 研究結果

### I 看護職のボトムアップとエンパワメント

①6月と10月に第16回・第17回 HIV サポートリーダー養成研修を3日間から2日間に濃縮して実施した。受講者数の累計は320名である。大阪府外からの参加者は合計37名であり、着実に増加している。HIV 感染症の医学的な情報だけでなく、幅広くセクシュアリティ教育として「性の多様性」「思春期からの性感染症・避妊」の内容も含め、楽しいアクティビティを盛り込んだ楽しい研修という評判が広がってきた。詳細は、別添アンケート調査結果を参照。

看護師・養護教諭養成機関においても HIV 感染症については十分な内容を教育されていないので、研修には看護学部生・養護教諭養成課程学生を含めて

看護職のボトムアップを今後も図る。

研修の修了生には、出前講義への見学や参加を勧めており、見学者が増加している。研修の講師として講義をおこなう機会を今後も作っていき、一般の看護職が高校への出前講義や研修など、病院以外の場面で活躍できる場を提供する。

看護職への研修は、大阪府看護協会での実習指導者講習会(80名×3回)、国立大阪医療センター(40名×2回)、全国教務主任養成研修(30名)久留米大学(80名)、医師・看護職への研修は、国立福山医療センター(20名)で実施した。

## II 介護保険施設で勤務する看護・介護職への研修を企画・実施

### 1. 対象

大阪府内で研修の依頼がある介護保険施設(2施設)及びA市が開催する施設責任者会議内研修受講者、計65名。

### 2. 研修内容

研修参加者に対し、無記名自記式質問紙調査を倫理的配慮の上で実施した。「HIV 感染症について」、「患者の思い」の講義、視聴教材 DVD「介護職として知っておきたい10のこと」を視聴し、標準予防策で必要な、マスク、手袋、エプロンの着脱方法を実際に体験(計90分)し、研修前後の知識・態度・言動の変化について調査した。

### 3. 研修の効果

#### 【感想についての自由記載】

- ・ 感染、発症したら死ぬなどの怖いイメージ。不治の病だと思っていた。
- ・ 怖い、感染率が高いと思っていた。
- ・ HIV/エイズについての研修は初めてでした。研修がなぜヘルパーに必要なのか疑問でした。
- ・ 利用者の感染症の有無を知らず、介護していることが多い。
- ・ 良い薬ができて普通に生活が送れるようになったとは言え、多くの患者が偏見に苦しんでいる事実

を知った。

- ・ AIDS の知識は死のイメージでした。研修を重ねて少しずつイメージをかえることが必要。
- ・ 感染予防策がなぜ必要なのか改めて考える機会になった。
- ・ 正しい知識が広まることで、世の中のたくさんある偏見や差別がなくなってほしいと感じた。
- ・ 標準予防策を行うことで、安心して利用者様と向き合い対応できる。
- ・ 医療が進歩していること、知識は更新しないとイケない。感染力の低いことも学習できた。利用相談が入っても前向きに検討する心構えと施設をととして整えるだけでなく、ご本人の気持ちやご苦勞に寄り添うことも忘れないようにしたいと感じた。

### 介護職の方に知っていただきたいこと(DVD)

研修用教材 地域 HIV 看護の質の向上に関する研究



介護職として、知っておきたい10のこと

### III 高校生への HIV 予防啓発と養護教諭への研修

- ① 第 17 回 HIV サポートリーダー養成研修には、大阪教育大学の養護教諭養成課程の学生 8 名と教員 1 名が参加した。
- ② HIV サポートリーダー養成研修修了者に出前講義等の登録希望調査を実施し、高等学校からの出前講義の要請にこたえていく。
- ③ 高等学校への出前講義（一斉講演）年間 15 校
- ④ 高等学校へのクラス単位の STI/ エイズ予防教育を 2 校に実施した。1 校あたり、20 名近くの臨床看護職が参加し、次年度以降も積極的な協力者が確保できた。

### 考察

介護保険施設での HIV 陽性者の受け入れを促進するための研修が拡大した。今年度は 3 件であったが、次年度以後は年間 5 件程度まで増加する予定である。

HIV サポートリーダー養成研修と高校生への出前講義、大阪府看護協会が主催する看護職研修、大阪府教育委員会が主催する研修、高校生への出前講義について、次年度以降も実施していく。

### 結論

看護・介護・学校現場でのケアと予防の拡大のための基礎作りが出来たので、さらに研修・教育内容を洗練させ、質の向上をはかる。

### 健康危険情報

該当なし

### 研究発表

#### 1. 論文発表

該当なし

#### 2. 学会発表

井田真由美、佐保美奈子、西口初江、泉柚岐、豊島裕子、白阪琢磨：介護保険施設における感染症予防研修全職員への出前研修 実践報告。第 32 回日本エイズ学会、2018 年 12 月、大阪

### 知的所有権の出願・取得状況（予定を含む）

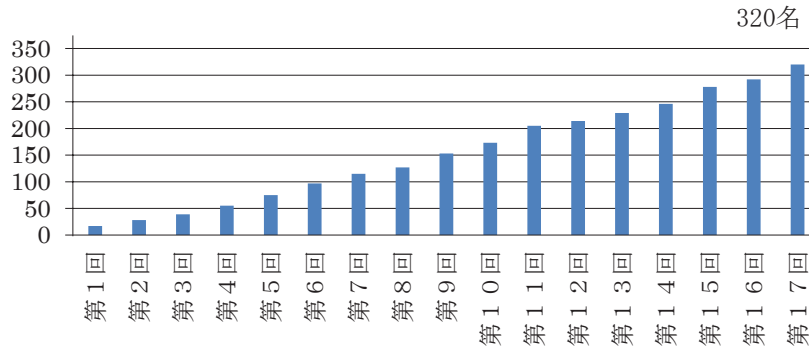
該当なし

## HIV サポートリーダー養成研修のまとめ（第17回まで）

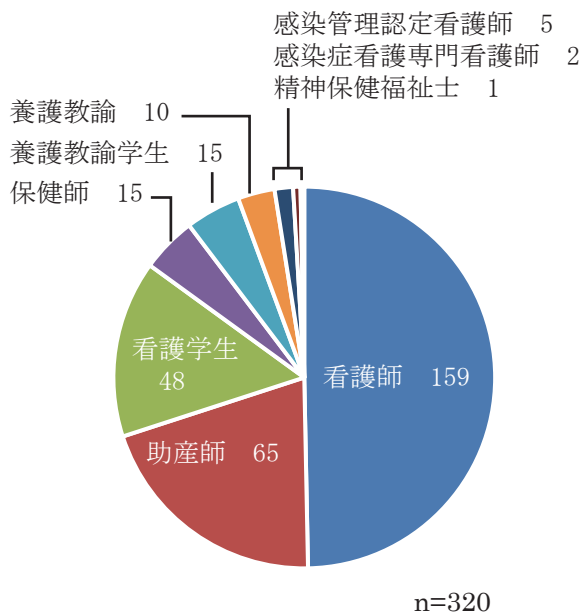
### 1. 受講者数

これまでの受講者数は320名である。

HIVサポートリーダー養成研修 累積受講者数

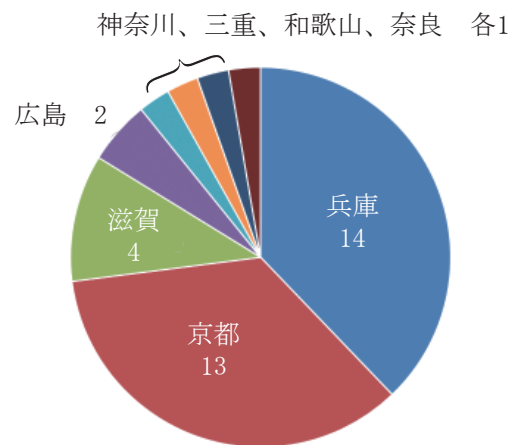


### 2. 受講者の職種



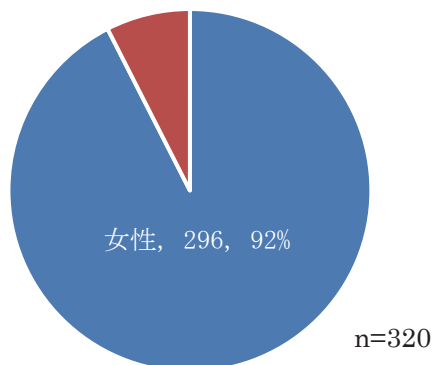
### 5. 受講生の居住地

受講生320名中37名が他府県からの参加であった。  
大阪府外在住の参加者 37名（320名中）



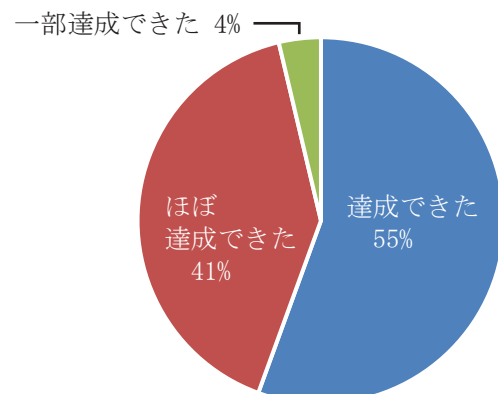
### 3. 受講生の性別

男性, 24, 8%



### 6. 研修目標の達成度

研修目標：セクシュアリティ、HIV感染症について広く学び、HIV陽性者への初期対応・介護職研修・高校生へのHIV予防出前講義に必要な態度・知識・技術を得る

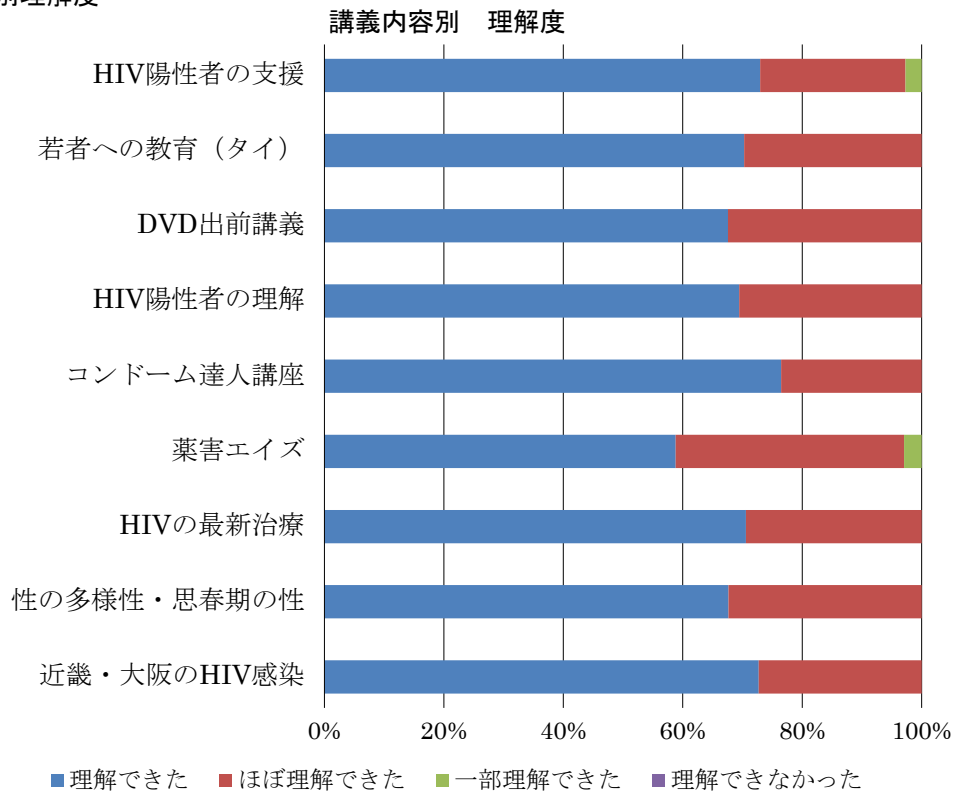


### 4. 調査票の回収数（第16回、第17回）

参加者43名 回収数37 回収率86%

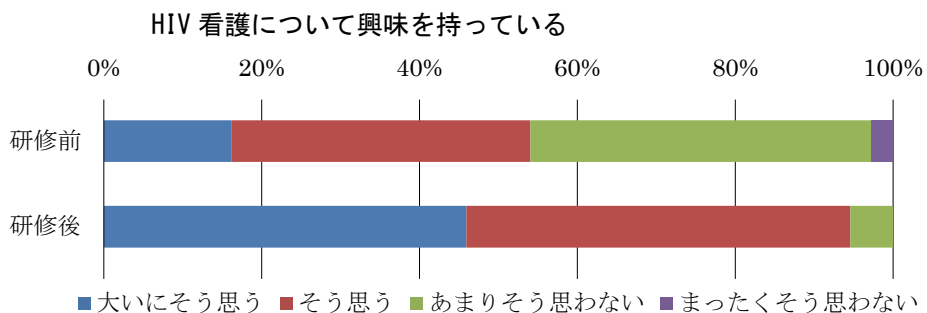
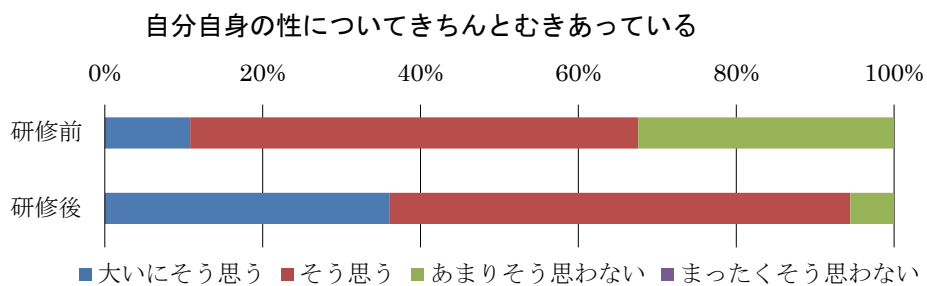
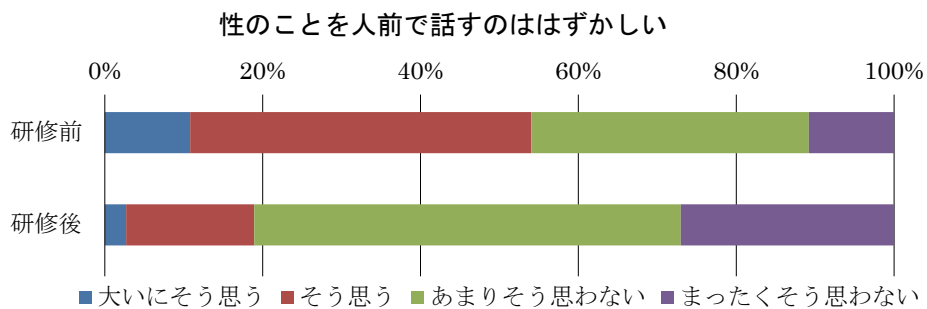
「達成できた」「ほぼ達成できた」者が96%であり、研修内容が現場の声を多く反映し、体験的に学習できる内容であったことが、後述の自

## 7. 講義別理解度

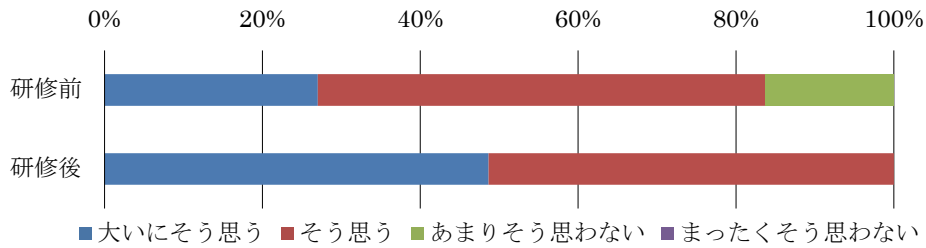


講義内容別理解度は、「理解できた」「ほぼ理解できた」を合わせると、ほぼ100%である。

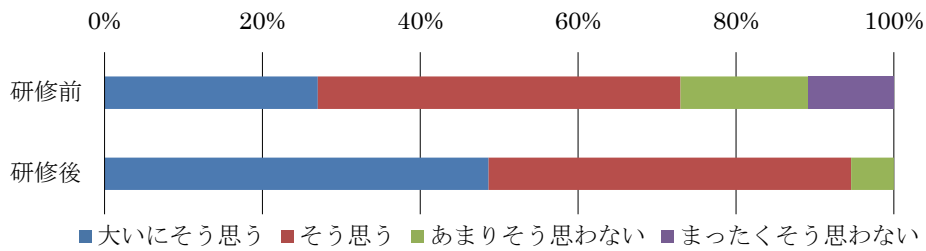
## 8. 態度の変化



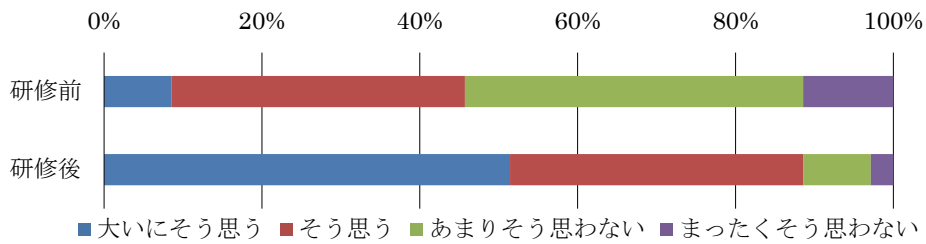
## 性欲は基本的な欲求の一つであり大切にしたい



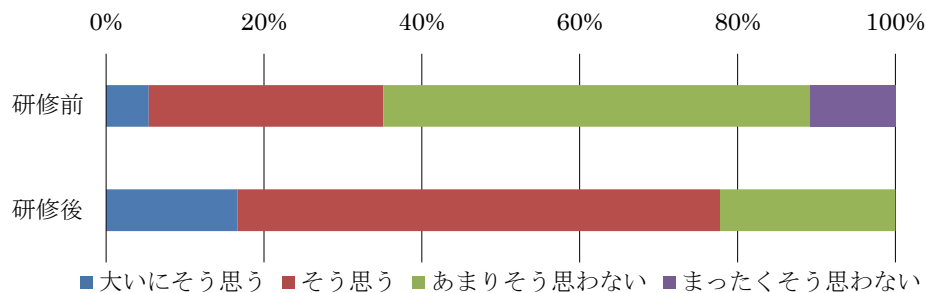
## HIV予防教育の出前講義に積極的に関わりたい



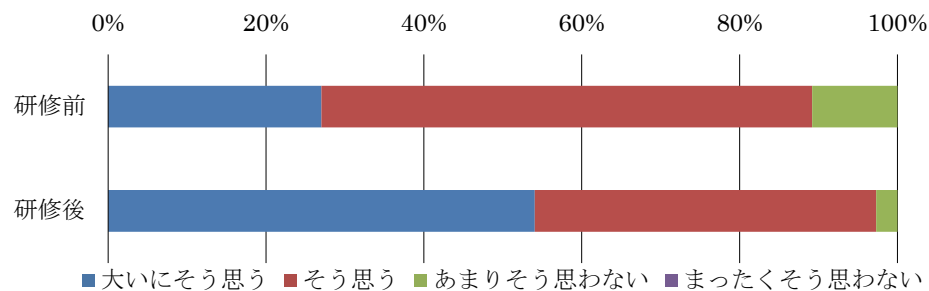
## 自施設で、HIV陽性者のケアへの準備をしたい



## グローバルな広い視点で看護を考えている



## 他者と深く関わることは喜びである



## 8. 自由記載の内容（平成 30 年度開催の第 16 回・第 17 回分のみ、原文のまま、すべて記載）

### ①看護職が地域の高校生に出前講義をおこなうことについて、職場の理解・自分自身の課題など自由にご意見をお書きください。

#### （第 16 回）

1. 私はひらの職員で、口下手なのでその辺りが課題かなと思います…。高校生の頃（私は女子高です）、吉本の芸人さんの亀山房代さんが性についての講演会をされたのを聞きました。ざっくばらんにあっけらかんと話されているのが特徴的でよく覚えています。もし私がそんな講演をすることがあれば、そんなふうに話せたら理想です。職場の理解はなんとかなるのではと思います。
2. 現在の職場での理解はないと思います。PSW になって、もっと HIV(+) 者の方と関わっていききたいです。
3. 中学生対象に行っており職場の理解もあり、問題は感じない。しかし今回の講義を受けて、伝える内容を見直していききたい。
4. これから性と向き合っていく子たちに正しい性の理解をしてもらえるよう関わっていききたいと思います。そのために、正しい知識、表現ができるようこれからも学びを継続していききたいと思います。
5. 医療者として伝える所に加えて、自分自身も一人の人間である、特別でないことを伝えたい。みんなが周りに伝えることで広がるようにしたい。
6. 高校生への性教育を現場のNsが行うこととてもいいことだと思います。本当は色々知りたい年頃だけど声に出してきけない年頃だと思うので、続けて頂きたいと思います。
7. 参加目標にしていた HIV の知識を得る事について、最新の治療や現状、患者さんの声など聞けて、思っていた以上に自信をもって知識を得る事が出来たんじゃないかと思います。自分の知識だけに留めず、患者さんへの指導や病棟のスタッフにも共有したいと思います。また、私の地域には子供が多く、自分の子どもたちに対して感染予防についての教育・性的マイノリティの子ども達もいる事もふまえ、すべての性が尊いんだとも伝えたいと思いました。
8. 私は小学生の時に HIV について地域の看護師やボランティアから授業を受けて、私たちの学校の生徒は全員 HIV はキスしても、お風呂に一緒に入っても感染することはない。通常の生活をしていればよい、血と体液に注意は必要ということを知識として得ていました。ですので、学生時代に性について、感染予防について知ることはとても大切だと思います。
9. 出前講義に行くにあたり、最新の知識が必要。みんなが（出前講義に参加するスタッフ）知識を共有していきたい。

10. 医療者として中学生や高校生へ何か伝えていければよいと思いました。怖がらせるのではなく、正しい情報を伝えていきたいです。

11. 職場の理解があり、出張という形で中学のいのちの出前授業へ行っています。指導内容の見直しが必要など、今回の内容からたくさんの学びがありました。

12. 高校生に対して講義をするのは自分自身、自信はない。あまりまだ知識がないような気がする。講義を受けている現代の高校生の様子は見てみたい。

#### （第 17 回）

1. 学生への講義は学校の先生ではなく、医療の現場で働くスタッフ（特に看護師）が性感染症やエイズについて伝えることで、より深く伝わるのではないかと感じました。私自身今回の研修で当事者の方に講義をしてもらったことでより知識を深められたと思います。地域での活動に興味はありませんでしたが、今回の研修で地域での活動もしてみたいなと思いました。
2. 当初は全く興味がなかったのですが、講義を聞く中で、専門職が性にめざめはじめて、誤った危険な行動に出る前に教育し、防止することの重要性が理解できた。自分自身がまだ人前で性について堂々と語る事ができないので、その辺りを強化してからのぞみたい。職場はなかなか理解しようとしないと考えるが、それは交渉のやり方でどうにかなると考えている。
3. 教職員のみだけでなく、専門職が講義を行う意味は大きいと聞いて、自分も参加してみたいなと思いました。タイでの出張講義の映像を見て、ピアエデュケーションの力が大いに発揮されているのを感じました。日本ではあそこまで性にオープンに話し合うことって現状では難しいことのように感じます。そういう意味でも、今の中高生がどんな風に性をとらえているのか、興味があります。
4. 素晴らしい機会になるのではないかと思う。学校現場において教員が行うよりも看護職の方の言葉選びや写真・スライド等があることでより濃く子どもたちに中身が伝わると思う。
5. 自分は看護職に就いていないので、看護職の方に高校生へ講義を行っていただくことについて、やはり専門的に教員よりも勉強されているかたや実際の現場を知っていらっしゃる方が講義をしていただくことにより、生徒も良い緊張感をもって、説得力を受け、熱心に取り組めるのではないかと感じる。
6. 看護職が性や感染症について講義を行うことで、医療という意識を持って高校生たちが学ぶことができると感じた。HIV などの性病は特に知識があまりなく、他人に相談しづらいことだと思う。出前講義をきっかけに学校や保健室は理解がある、受け止めてくれると子どもたちに思ってもらいたい。
7. 教職員が行うよりも専門的な看護職の方々が出前講義

- を行うほうが子どもの理解が良いと思うので賛成です。毎日顔を合わせる教職員から性について話されると聞く側も恥ずかしいと感じ、真剣に聞く姿勢が取れないと思いました。看護職の方も自身の経験がある上で出前講義をされているので養護教諭として足を引っ張らないように、支えになれるように努力する必要があると感じました。
8. 看護実習生として高校2年生対象に性教育の範囲を受けもった経験から、養護教諭として、また保健体育科の教員として生徒に教えることの難しさを感じていました。看護師さんなど専門職の方に来ていただくことの意義をしっかりと考えてみる機会になりました。学校という狭いコミュニティの中だけでなんとかしようとする風潮を変えていき、もっと外とつながりを持てるような、そのつなぎ役となれるような養護教諭になりたいと思いました。
  9. 教員ではなく専門職の方が講義をすることで、より正しい最新の知識を得る事ができたり、子どもたちも素直に受け入れることができるのではないかと感じました。学校と地域の医療機関のつながりがとても大切だと思いました。
  10. 毎日関わっている教員ではなく専門知識を持った看護職が講義を行うことで、高校生の受け取り方も違ってくるのだなと思いました。
  11. 教員ではなく遠い立場の専門職者が講義を行うことで、高校生は聞き入れやすい部分もあると知った。専門職者になる者として、自分自身がまずきちんと知識を得る事が大切だと思った。
  12. 看護・医療の視点で、HIVやAIDSについて知識を深めるための活動は素晴らしいことだと思いました。「性」に関することについて話をすることは難しいことであり恥ずかしいことでもあると思っていましたが、正しい知識を持って疾患予防につなげていくことにすごく重要な役割を果たしているのだと感じました。
  13. 自分自身が学生の頃は養護教諭や担任による保健・性教育の授業しかなかったように思う。現在は看護職による出前講義が行われていると知り、専門的な知識の普及がされており、素晴らしいことだと感じた。HIV陽性、AIDS患者を増やさない、作らない為にもニーズに応じた講義を行う必要がある。一度見学に行って、実際を見てみたい。
  14. 高校生のHIV・性教育については、大変必要な社会貢献であると思いました。職場での院内教育でも取り入れることによって、一人一人の理解と意識が得られることができれば、チームで活動することもできるのではないかと考えます。もし参画するものがないとしても、理解を得る事で、勤務のカバーも快く助けてもらえるのではないかと思います。
  15. 感染症の外来に関わるNsだからこそできる予防看護ができるのではないかと痛感していますが、自分自身の知識不足を感じています。もう少し自己研鑽を深め、地域や青少年のケアに関わっていきたいと思います。
  16. まずは自分の職場からの理解を深めるため。6月に研修参加した同僚とともに勉強会をしたいと思います。
  17. 高校生の教員ではなく、看護師が講義を行うことで高校生に届きやすいと感じました。講義を行う際はどのような言葉を使って説明するのかなど事前の準備がとても大切であると思いました。看護職がHIVや性教育などを行うことができている高校はすべてではないので、できるだけ多くの高校で実施できればいいと思いました。
  18. 看護職が出前講義を行うことで、高校生にも印象に残りやすく、広めていく必要があると思った。本で行った水の交換のワークショップなど実際に自分も参加することで理解が深まりやすいため、色々な出前講義も参考にしながら考えていく必要があると思った。
  19. 学校で性に関する授業をする際、学習指導要領の件や教職員・保護者・地域の方の理解などの関係があり、養護教諭としては進めにくい内容の部分が多くあります。今まで看護職の方に出席講義に来ていただいた時には、そういった内容も医療として説明頂けたこともあり、とてもスムーズに進めることができるともよかったです。今後も看護職の方と連携しつつ、性教育の充実を図っていきたいと思います。
  20. 看護師だからこそ話せることがあると思うので、私も出前講義への参加をしたいと思いました。また、院内研修ではこのような内容の研修はなく、HIV/AIDSやセクシュアルマイノリティに対する対応は学びにくいので、ぜひ院内でも取り入れてほしいと思いました。
  21. 今回受講する前は、HIV陽性患者さんに対して、差別意識をなかつたつもりでした。しかし今回様々な研修内容を学んでいくことで、入院してきた患者に対して少し偏見や差別をしていたかもしれないと思い、今後は学んだことをまずは部署内のスタッフに伝え、HIVについてのスタッフへの理解につながればと思います。またこんかい学んだことで、針刺し事故後は2時間以内に予防薬の内服をすれば感染も防ぐことができるとのことで、すぐにスタッフに伝えようと思います。
  22. 職場の理解については、現状を伝えることで得られると思います。
  23. 看護職が地域のためにできるとも素敵なことだと思う。
- ②研修全般やHIV看護についてのご意見をお書きください
- (第16回)
1. 外来の専従Nsとして働いているけれど、「私なんかでいいの?」という思いがあり、勉強しないといけな



と思っていたのでとてもいい機会でした。特に、初期対応の授業は、私がふだんしていることに関してはまちがってなかったんだと再認識させられました。ちゃんと通院して、毎日くすりをのんでいることがどれだけ大変で、どれだけすごいことか、もっと患者さんをねぎらってあげたいと思いました。いつか、「今日は先生に会わなくても別にいいんやけど〇〇さんに会いに来たねん」と患者さんに言われるようなNsになりたいです。ありがとうございました。

2. 感動しました。ちがう研究班でとまどいましたが、最後はとても良い形で終わられてよかったです。ありがとうございました。
3. HIV について新しい知識がたくさんつきました。ありがとうございました。今回学んだことを日々の看護に生かしていきたいと思います。
4. とても楽しく学ぶことができました。スタッフに対しても、一般の方に対しても楽しく伝えることができるようになりたいと思いました。
5. HIV への理解は社会のみでなく医療者の中でもまだまだ乏しいところにあると思います。正しい知識を持って一個人の生きる環境を整えていくのも私たちの責任と思いました。これからサポートしていけるように学びを広げ仲間をつくっていききたいと思います。わかりやすく身近に思える講義でした。ありがとうございました。
6. 2日間本当にありがとうございました。性についてタブーなところもまだまだありますが、全員が関わることだと思うので、理解者として看護したいです。私と同じような人が増えればいいなと思いました。
7. 基本的な知識を学び、今後臨床に活かすことができると思います。ありがとうございました。
8. 紙粘土で性を表したことがとても印象的でした。自分が性についてこんなイメージを思っているのだとおもしろかったです。予防行為は自分を大切にすることとともに、相手や周りの人を大切にすることなんだよと周りの人達に伝えていきたいです。
9. この研修に参加するまで、LGBT や HIV 陽性者に対して、理解できていない部分があったので、参加して本当によかったです。ありがとうございました。
10. 自分の価値観だけにとらわれずに、広く相手を想うことの出来る看護をしていきたいです。HIV についての動向や最新情報を学ぶ良い機会となりました。
11. HIV 看護の実践は未経験ですが、いつか実践するときのために、とても参考になりました。性について考える機会にもなりました。
12. 今回の研修で、基本的なことから、実践的なことまで幅広く教えていただけて大きな学びになりました。今回のことを今後の HIV 看護に活かしていけそうです。また、自分の子どもがまだ3歳なので、大きくなって

性教育が必要な時には大切なことはしっかりと伝えていきたいと思いました。2日間ありがとうございました。

#### （第 17 回）

1. HIV について自分の思っていたことと全く違ったことが多く、いかに自分に知識がなかったか、そうなる了一般の人はいっと正しい知識がないんだと感じました。予防についても大切だし、感染してからのサポートも私たちにできる大切なことなんだと思いました。
2. HIV に関して、危険な感染症であるという認識にとどまっていたが、予防策が大切なこと、一般人の知識を正しい方向に導くことの大切さがわかった。今後患者さんに対してよりそったケアができるという自信がついた。
3. 今まで、特に HIV 看護に興味を持ったことはなかったのですが、今回この研修を受けることができよかったと本当に思いました。改めて知識を得る事ができたのもよかったですが、今何かと話題のセクシュアルマイノリティの方々のお話を聞いたり、HIV / AIDS 患者さんの関わり方などを学ぶことができとても勉強になりました。中高生への出前講義にも興味があるので、一度参加してみたいと思います。本日はありがとうございました。
4. エイズ教育について教えるべきこと、教えたいことが具体化し、実践力が高まったと考える。エイズ教育（性教育）は難しいものというイメージが強かったが、講義の中で楽しく学べるもの、学習者主体で学んでいくものという風にイメージが変わり、少し肩の力が良い意味で抜けたように思う。LGBT に関する学習では、本や一般の講義と異なり、説得力があり、理解も前向きに進むように感じたので、当事者の人々にも協力をいただきながら教えたいと思った。
5. HIV の予防について、研修前は、「大人に必要とってくる予防」というイメージであったが、研修を経て、子どもたちにも必要であり身近に迫っている内容だと感じる事ができた。大変勉強になりました。先生方ありがとうございました。
6. HIV、エイズについて正しい知識を学ばせていただいた。HIV 感染しエイズを発症すると死ぬという事は思っていなかったが、免疫が下がるという漠然としたことしか知らなかったので機序や予防法も詳しく知れてよかった。また、性の多様性についても当事者の方に語っていただきとても興味深く聞かせていただいた。
7. HIV 感染の現状や HIV 陽性者の気持ち、またそれを支援する看護師さんの考えなど様々な方面から HIV について考える事ができた。HIV について知識を深めた分、自分の周りに還元していきたいと思う。丁寧に講義をしていただき勉強になりました。ありがとうございました。
8. 今まで HIV や AIDS について学んだことはあったが、

- HIV 陽性者の気持ちや対応の仕方については学んだことがなかったのととても勉強になりました。養護教諭になった時に活用できる知識を得ることができました。ありがとうございました。
9. 大学にいただけでは聞けないお話や当事者の方のお話をきけたことが貴重でした。
  10. HIV についての基本的な知識を改めてきちんと学ぶことができ、医療の現場や高校生への出前講義についても実際の経験のお話をたくさん聞かせていただき勉強になりました。HIV 陽性者や LGBT の方について聞く中で、ひとりひとりの人との関わり方についても考えさせられました。
  11. HIV 看護から性の多様性まで様々なことを学ぶことができました。タイの HIV / AIDS 予防教室で行われているワークショップを実際に体験出来て、とても楽しく学ぶことができました。
  12. HIV に対する誤った認識・理解の乏しさが当事者たちを苦しめていると知った。医療者の言葉の重みを考えて、自分の何気ない言葉でさらに苦しめるなんてことが起こらないように、理解を深めていきたいと思った。
  13. 感染症科で働き HIV 患者とも接する機会があります。正直自分がどのように接すればいいかと悩み、自分の対応で相手がどう思っているかと気にすることもありました。研修を受けて性の多様性について改めて学んだり、LGBT の方の意見（思い）を聞くことができ、一歩引くのではなく、また特別でもなく普通でいる事が良いのだと思いました。繁内先生の「看護、医療者はシェルター的な、最後の砦、信頼できる存在であるから一言に傷つくことがある」というのが印象的であり、患者さんと接する中で気持ちによりそったりただ話を聞いたりということも大切にしていきたいと思いましたし、何より正しい知識を身につけて看護をしていきたいと思いました。
  14. 2 日間の研修を通して HIV / AIDS 看護についてとても理解することができた。普段感染症科に勤めている事もあり AIDS 患者と接する機会があり、そのような看護を行えばよいのか疑問に感じたり、もやもやしている部分があったが、それがすっととけていったように感じる。AIDS 患者や LGBT の方々を特別扱いするのではなく、あくまで普通に、一人の人として寄り添い、ケアを行っていくことが大切であると学んだ。
  15. 研修を受ける前は、HIV への知識についてが主な内容であると思っていましたが、実際は、疾患の理解だけではなく、人権問題や社会的な面が大きく関与している・課題があることと思いました。
  16. 今まで外来で HIV の患者様に関わる事が多いので、これからも HIV の疾患や治療、看護の知識を深め、患者様の支援や指導に今より一歩踏み込んでいけるような信頼関係を構築しながら、看護展開ができるようにしていきたいと思います。
  17. 外来に来院されて HIV と診断された患者に積極的に関わっていこうと思います。
  18. HIV は珍しい病気ではないので、誰もが知っておくべきであると思います。特に看護職はきちんと理解しておくべきであり、看護職の知識不足により、HIV 患者を傷つけてしまうこともあると思いました。
  19. 水の交換のワークショップが印象的であり、自分が HIV 陽性者であることを検査するまでわからず、医療職者だからならないということはないと改めてわかった。HIV は予防法・検査があるためそれを広めていくことが必要だと思った。また、看護職として HIV 陽性となった患者さんへの対応も考える必要があると思った。
  20. HIV の患者と関わる機会は今まであまりありませんでしたが、HIV 患者ということで過剰に警戒・感染予防対策をしていたなと反省しました。しっかり対応を学んで理解できたと思うので、現場で活かしていくと同時に、病院内だけでなく地域や学生・海外支援等で知識を共有していけたらと思いました。多くの学びをありがとうございました。
  21. わかりやすく、楽しい講義ありがとうございました。HIV 看護はすごくデリケートな問題で、今まで働いている病棟にも何人か HIV 陽性患者さんが入院されたことがあり、すごく戸惑った部分もありましたが、今回学んだことを自身の看護につなげていけたらと思います。
  22. 講師の方々の活動と 2 日間の講義から HIV 看護の重要性を理解することができました。
  23. 自分の HIV についての知識がとても古いものであるとわかり、治療の現状など勉強になった。田舎なので HIV の人も少ないし、LGBT の人はいないと何となく思いこんでいた。自ら発信できないかもしれない。患者さんから相談されたときに、どうするのがベストなのか話し合いながら対処していきたいと思う。

## 第 16 回 HIV サポートリーダー養成研修

研修目標	セクシュアリティ、HIV 感染症について広く学び、HIV 陽性者への初期対応・介護職研修・高校生への HIV 予防出前講義に必要な態度・知識・技術を得る		
期 間	平成 30（2018）年 6 月 22 日（金）～6 月 23 日（土）		
対 象	看護師・助産師・保健師・養護教諭・看護学部生		
場 所	大阪府看護協会 桃谷研修センター		
募集人数	男女 30 名	受講料	無料（交通費は自己負担）

## プログラム

		講義名	講師名	施 設
第 1 日 金曜日	9：30-10：20	近畿・大阪の HIV 感染の現状	新海のり子	大阪府健康医療部 保健医療室 医療対策課
	10：30-11：30	HIV の最新治療	白阪琢磨	国立大阪医療センター エイズ先端医療研究部長
	11：40-12：10	地域 HIV 看護の質の向上への戦略 受講者自己紹介	佐保美奈子	大阪府立大学看護学研究科 准教授
	12：10-13：10	昼休憩（60 分） DVD 上映 「本気で CONDOMING」「介護職向け」		
	13：10-14：20	性の多様性	田村凌	虹色ナースネット 代表
	14：30-15：20	薬害エイズ	早坂典生	NPO 法人りょうちゃんず
	15：30-16：30	コンドーム達人講座（知識と技術）	立花久裕	訪問看護ステーション 町の看護師さん八尾管理者
第 2 日 土曜日	9：30-10：30	HIV 陽性者の理解と初期対応	豊島裕子	大阪市立総合医療センター HIV 専従看護師
	10：40-12：00	DVD を使用した出前講義	大野典子	日生病院看護部 感染症看護専門看護師
	12：00-13：00	昼休憩（60 分） DVD 上映 「看護職向け」「養護教諭向け」		
	13：00-14：40	若者への HIV/AIDS 予防教育	牧之内純子	ピープルズ・ホープ・ジャパン
	14：50-15：40	HIV 陽性者の支援（地域、ピア）	繁内幸治	BASE KOBE 代表
	15：50-16：30	まとめ 受講内容証明書・修了バッジ 授与		

本研修は、日本エイズ学会の HIV 感染症研究会の教育研修単位認定（学会認定医・指導医および学会認定 HIV 感染症看護師・指導看護師、3 単位）の対象であり、厚生労働省エイズ対策政策研究事業、「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」（研究代表者：白阪琢磨）の分担研究「HIV 看護・介護の質の向上と学校での HIV 予防教育実践に関する研究」（研究分担者：佐保美奈子）の研究費により、（公社）大阪府看護協会の協力を得て、開催されているものです。

## 第17回 HIV サポートリーダー養成研修

研修目標	セクシュアリティ、HIV感染症について広く学び、HIV陽性者への初期対応・介護職研修・高校生へのHIV予防出前講義に必要な態度・知識・技術を得る		
期間	平成30(2018)年10月5日(金)～10月6日(土)		
対象	看護師・助産師・保健師・養護教諭・看護学部生		
場所	大阪府看護協会 桃谷研修センター		
募集人数	男女30名	受講料	無料(交通費は自己負担)

## プログラム

		講義名	講師名	施設
第1日 金曜日	9:30-10:20	近畿・大阪のHIV感染の現状	浦林純江	大阪市保健所感染症対策課 副主幹
	10:30-11:30	HIVの最新治療	白阪琢磨	国立大阪医療センター エイズ先端医療研究部長
	11:40-12:10	地域HIV看護の質の向上への戦略 受講者自己紹介	佐保美奈子	大阪府立大学看護学研究科 准教授
	12:10-13:10	昼休憩(60分) DVD上映「本気でCONDOMING」「介護職向け」		
	13:10-14:20	性の多様性	田村凌	虹色ナースネット 代表
	14:30-15:20	薬害エイズ	早坂典生	NPO法人りょうちゃんず
	15:30-16:30	コンドーム達人講座(知識と技術)	立花久裕	訪問看護ステーション 町の看護師さん八尾管理者
第2日 土曜日	9:30-10:30	HIV陽性者の理解と初期対応	豊島裕子	大阪市立総合医療センター HIV専従看護師
	10:40-12:00	DVDを使用した出前講義	大野典子	日生病院看護部 感染症看護専門看護師
	12:00-13:00	昼休憩(60分) DVD上映「看護職向け」「養護教諭向け」		
	13:00-14:40	若者へのHIV/AIDS予防教育	南部道子	ピープルズ・ホープ・ジャパン
	14:50-15:40	HIV陽性者の支援(地域、ピア)	繁内幸治	BASE KOBE 代表
	15:50-16:30	まとめ 受講内容証明書・修了バッジ 授与		

本研修は、日本エイズ学会のHIV感染症研究会の教育研修単位認定(学会認定医・指導医および学会認定HIV感染症看護師・指導看護師、3単位)の対象であり、厚生労働省エイズ対策政策研究事業、「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」(研究代表者:白阪琢磨)の分担研究「HIV看護・介護の質の向上と学校でのHIV予防教育実践に関する研究」(研究分担者:佐保美奈子)の研究費により、(公社)大阪府看護協会の協力を得て、開催されているものです。

## 第 17 回 HIV サポートリーダー養成研修 調査票

研修、お疲れ様でございました。この調査は、皆様のご意見を取り入れて、次年度の研修計画の検討をおこなうために実施するものです。この調査の結果については、厚生労働科研の報告書や関連学会で発表する予定ですが、個人が特定されるようなことはありません。報告書は次年度の 6 月に研究班のホームページにアップされ、PDF がダウンロードできますので、ご確認ください。記入後の調査票を、回収箱に投入していただくことによって、調査への同意とさせていただきます。同意しない場合は、破棄してください。

次の 1～3 について、項目ごとに該当する番号に○印をつけてください。

## 1. 研修目標の達成度について

研修目標：セクシュアリティ、HIV 感染症について広く学び、HIV 陽性者への初期対応、高校生への HIV 予防出前講義に必要な態度・知識・技術を得る

1 達成できた	2 ほぼ達成できた	3 一部達成できた	4 達成できなかった
---------	-----------	-----------	------------

## 2. 講義の内容の理解について

	【理解の程度】			
	1. 理解できた	2. ほぼ理解できた	3. 一部理解できた	4. 理解できなかった
1 日目	近畿・大阪の HIV 感染の現状	1・2・3・4		
	性の多様性・思春期のセクシュアリティ（健康課題）	1・2・3・4		
	HIV の最新治療	1・2・3・4		
	薬害エイズ	1・2・3・4		
	コンドーム達人講座（知識と技術）	1・2・3・4		
2 日目	HIV 陽性者の理解と初期対応	1・2・3・4		
	DVD を使用した出前講義	1・2・3・4		
	若者への HIV/AIDS 予防教育	1・2・3・4		
	HIV 陽性者の支援（地域、ピア）	1・2・3・4		

## 3. 研修前後の自分自身の態度の変化について

	1. 大いにそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. まったくそう思わない			
	研修前	研修後		
1 性のことを人前で話すのは恥ずかしい	1・2・3・4	1・2・3・4		
2 自分自身の性についてきちんと向き合っている	1・2・3・4	1・2・3・4		
3 HIV 看護について興味を持っている	1・2・3・4	1・2・3・4		
4 性欲は基本的な欲求の一つであり大切にしたい	1・2・3・4	1・2・3・4		
5 HIV 予防教育の出前講義に積極的に関わりたい	1・2・3・4	1・2・3・4		
6 セクシュアルヘルスの増進について学びたい	1・2・3・4	1・2・3・4		
7 職場で、HIV 陽性者のケアへの準備をしたい	1・2・3・4	1・2・3・4		
8 グローバルな広い視点で看護を考えている	1・2・3・4	1・2・3・4		
9 他者と深く関わることは喜びである	1・2・3・4	1・2・3・4		

4. 看護職が地域の高校生に出前講義をおこなうことについて、職場の理解・自分自身の課題など自由にご意見をお書きください。


5. 研修全般や HIV 看護についてのご意見をお書きください


調査票へのご記入をありがとうございました。